

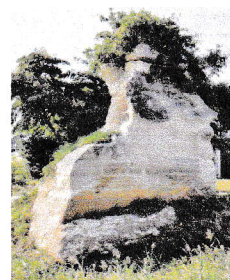
いうものではなかったそうです。

かつて、尾浜地区と松川地区でオデハンニャ（大般若に敬称をつけた御大般若のことで、大般若經の經巻を繰り広げて声に出して經文を読む行事のことです。家内安全・災害防除などの祈禱をします。）を行うときは、長命寺から大般若經を借りて行ったそうです。

經典 600 巻を浦船に積んで尾浜まで運んだそうですが、今は摂取院の大般若經を使っているそうですよ。

【百石岩】

岩子のスポーツセンターの近くに百石岩と呼ばれる小さな岩山があります。その昔、相馬忠胤（ただたね）が家臣の鈴木某（なにがし）を連れて狩りをしていたとき、9メートル程の岩山に鷲が止まったので、忠胤さんが鈴木さんに「銃で撃ち、鷲に傷がなければ百石を与える」といったそうです。鈴木は鷲ではなく止まっている岩を撃ち砕いて鷲を射止め、忠胤さんに差し出した。忠胤さんは約束どおり百石を与えたとのこと。以後、その岩を百石岩と呼ぶようになったとか。



（百石岩）

また、別の説もある。殿様が新田方面に狩りに出かけ、小川の橋に架かったところ、大きな鷲が岩子の萱原の方に飛んで行った。殿様が「誰かあの鷲を撃ち落とせ、射落とした者には百石を与える。」と呼びかけると、一人の武士が立ち上がり、「未熟ながら私が鷲をいとめましょう。」といい、大弓を満月のごとく引き絞り鷲めがけて矢を放った。馬に乗り一散に駆出し、やがて大鷲を持って帰り、殿の前に差し出した。殿は約束どおり百石の加増をしたとのこと。ちなみに、鷲撃橋は飯豊小学校のすぐ近くにある橋ですよ。

【丹下左膳の碑】

丹下左膳とは、林不忘（はやしふぼう／作家）の長編小説の主人公で、片眼・片腕（右手・右腕がない）の二ヒルな剣士です。奥州相馬中村藩 6 万の大名相馬大膳亮（そうまだいせんのみすけ）の家臣だよ。つまり、相馬藩の武士なのだ。

刀剣マニアの主君の密命を帯び、夜泣きの刀の異名を持つ関の孫六の名刀、乾雲丸（けんうんまる）・坤竜丸（こんりゅうまる）という大小一対の刀を手に入れるという争奪戦に加わった登場人物の一人だった（初めは脇役だったんだね。）が、強烈な個性によって、読者の圧倒的な人気を得た結果、続編では丹下左膳が主役に昇格したんだよ。良かったね。

相馬出身の時代劇のヒーローの碑を建てようと市内の有志が集まり、寄付を募って碑を建てたんだよ。使った石は飯館村産で、高さ 6.5 メートル、幅 2.8 メートル、厚さ 1.2 メートル、重さ 30 トンの御影石だ。碑の除幕式は平成元年（1989）9 月 15 日に行われたよ。



・林 不忘

本名、長谷川 海太郎（はせがわ かいたろう）、明治 33 年（1900）1 月 17 日、新潟県佐渡郡赤泊村（現：佐渡市赤泊）に生まれ、昭和 10 年（1935）6 月 29 日に他界しました。35 歳で亡くなったとは残念。

林不忘のほかに、牧逸馬（まきいつま）、谷譲次（たに じょうじ）の 3 つのペンネームを使い分けて活躍したそうです。



林 不忘（鈴木海太郎）